

kirari yokkaichijin Vol.116

きらり四日市人

一般社団法人四日市薬剤師会・
薬物乱用防止指導員
江川治美さん



地域の薬剤師として働くとともに、その専門性を生かして、薬物の乱用を防ぐ取り組みを推進する薬物乱用防止指導員としても活動している江川治美さんにお話を伺いました。

地域の薬剤師として

地域の身近な保健・医療の専門家として、医薬品の調剤供給を通して、地域に寄り添った業務を心掛けています。また、学校薬剤師として、学校環境の維持改善のため、教室の騒音や空気環境の環境検査、飲料水やプールの水質検査などもしています。最近では、新型コロナウイルスワクチンの集団接種でも、お手伝いをさせていただきました。



薬物乱用防止キャンペーン



近鉄四日市駅北口での街頭啓発



訪問薬剤管理指導

薬物乱用防止指導員として

学校薬剤師を務めた縁で、薬物乱用防止指導員としても活動しています。四日市地区では、保護司や薬剤師など91人が、知事から指導員として委嘱を受け、薬物乱用防止指導啓発団体14団体とともに、薬物乱用防止講習会や学校などでの薬物乱用防止教室の開催、薬物乱用に関する相談を受けるなどしています。例年10月・11月には、麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動期間として、街頭で啓発活動をしています。

薬物乱用の恐ろしさ

覚醒剤や大麻などの違法薬物は、たった一度のつもりでも、安易に手を出してしまうと、依存症が生じ、自分の意志だけではやめることがとても難しくなります。近年、一部の外国で大麻が制限を設けたうえで合法化されましたが、単に「大麻は害がない」など誤った内容や無責任な情報などがSNS上にあふれ、若年層の大麻乱用の増加の一因となっています。また、家族間で処方薬を共有する人、自己判断で医師の指示と異なる薬の服用をする人を薬局でも見掛けます。市販薬を含め、医薬品の誤った使用は、薬物乱用になりますので注意が必要です。

子どもたちの健全な未来を守るために

教室に参加した子どもが、「人生を台無しにしたくない」、「薬物の危険性が分かった」と感想をくれたことがあります。子どもの頃に聞いた話は心に残るものです。薬物乱用防止活動が子どもたちの健全な未来を守ることにつながるといふ思いで、今後も地道に活動を続けていきます。

11月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪」でも紹介します。(放送時間は裏表紙へ)